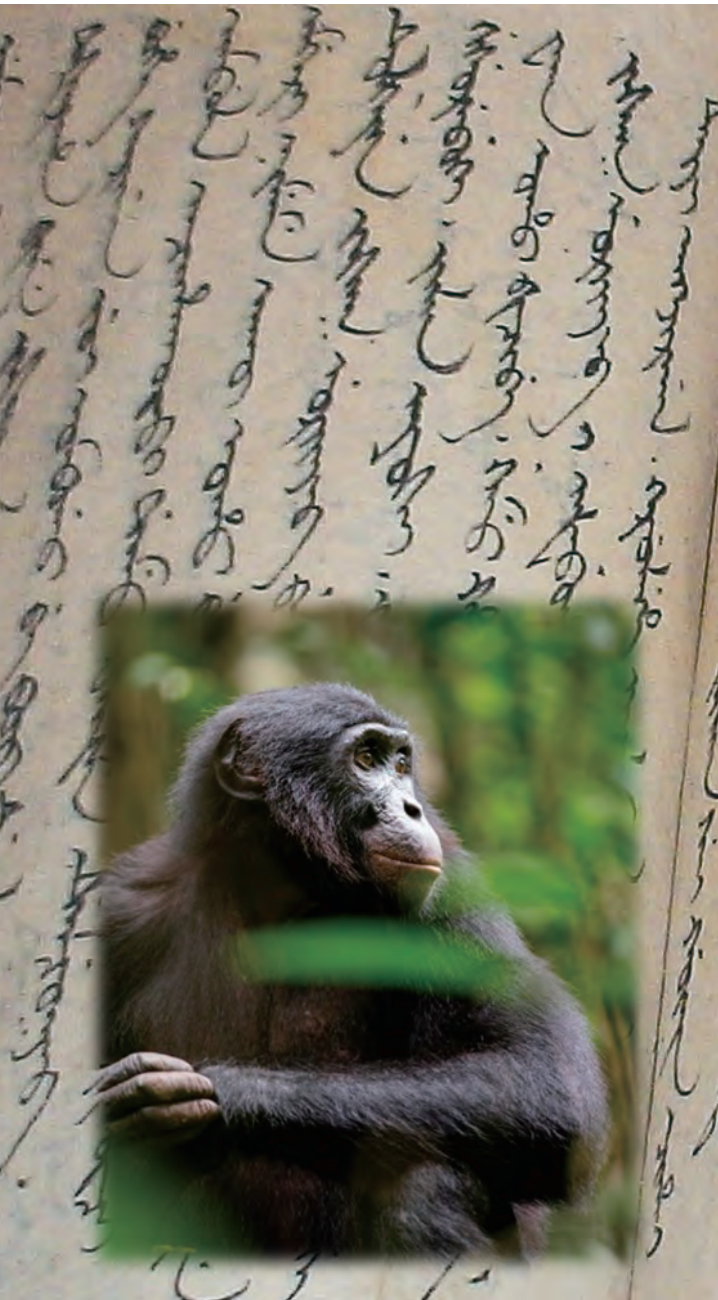


第16回（平成27年度）

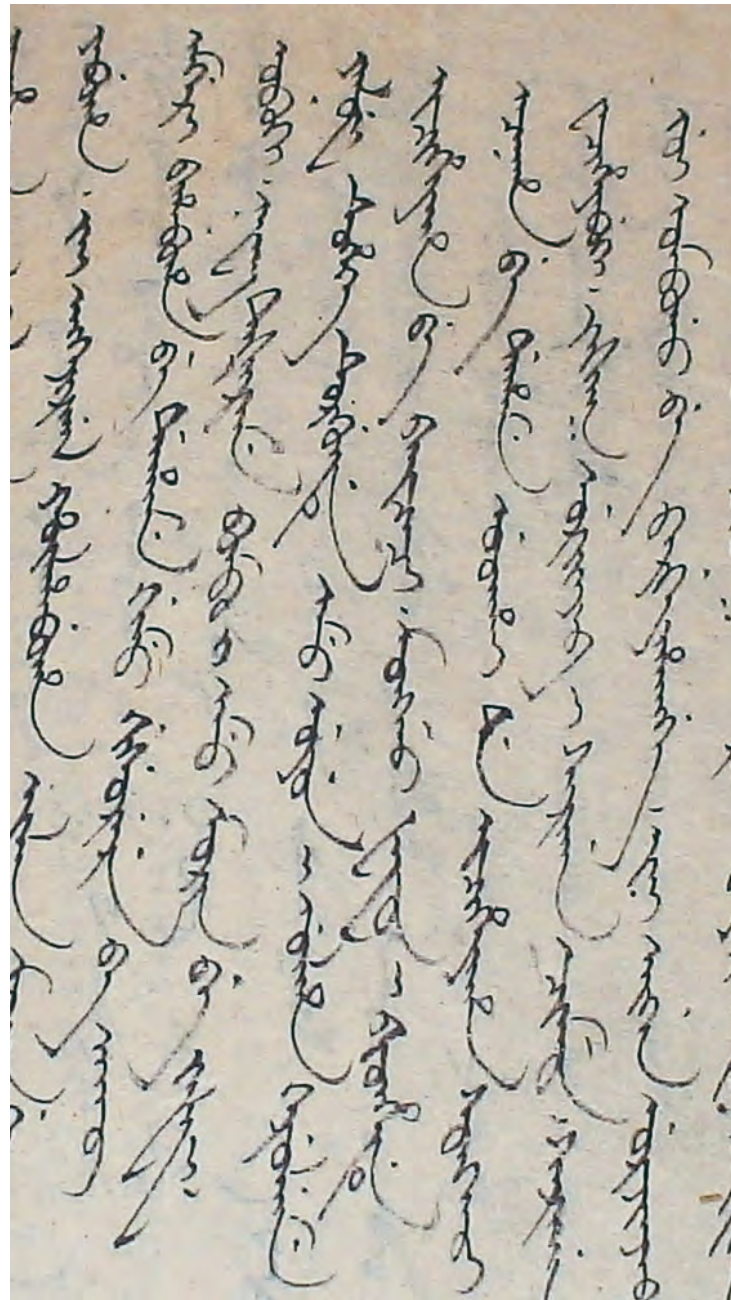


神戸大学大学院 国際文化学研究所公開講座

ひょうご講座 2015 受講者募集要項



「人類の営為——言語と行動」



- どなたでも無料で受講できます。ただし、定員（200人）に達し次第、受付を終了いたします。
- 申し込み方法は裏面または研究科ホームページをご覧ください。

<http://web.cla.kobe-u.ac.jp/>

1. 講座の目的と概要

人類は、身体、文化、社会など多くの面で他の動物とはかなり異なっていますが、具体的に何がどう異なっていて、何がどう似ているのでしょうか。今年度の国際文化科学研究科の公開講座では、人類の人類たる所以の根源に迫ってみたいと考えています。まず、10月10日の講演では、その根源の一つである「言語」の問題を取り上げます。人類は、言語を使用することによって互いに意思を疎通して社会を形成し、さらにはそれを文字化することによって、明確な社会集団や国家を形成・維持してきました。言語と文字の問題を深く追究していくことは、人類研究のスタート地点ともなるでしょう。次に、10月17日には、人類の根源のもう一つの核心部分である「行動」に迫ってみます。人類は独りでは生きていけません。他の動物と同じように、しばしば集団で暮らし、その内外で繁殖行為や衝突行動等々を起こします。これらの行動は社会と密接に関わっています。時には他者と協力関係を築くことにもなり、またあるときにはトラブルを生んだりもして、人類に特徴的な文化や規範を形成することとなります。このような人類の「行動」を、類人猿との比較や人類特有と思われる性差についての概念との関わりから考察します。このように、「言語と行動」という人類の基本的な営為を深く検討することによって、人類の人類たる所以が一部でも見えてくるのではないのでしょうか。

2. 期間及び日程

平成 27 年 10 月 10 日 (土)、10 月 17 日 (土) の 2 日

詳しくは裏面の「講義日程・題目及び講師」をご覧ください。

3. 受講対象者

一般社会人、学生（中学生以上）

4. 募集人員

200 人（先着順受付）

5. 講習料

無料

6. 受講申込方法

(1) 受付期間：**平成 27 年 9 月 1 日 (火) から 9 月 30 日 (水) まで**

ただし、定員に達し次第、受付を終了します。

申込期間外の受付はできません。上記期間内にお申し込み下さい。

(2) 申込方法：同封の「受講申込書」に必要事項を記入し、下記に郵送、FAX または

E-mail で送信してください。「受講申込書」は研究科ホームページ

(<http://web.cla.kobe-u.ac.jp/>) よりダウンロードすることもできます。

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1-2-1

神戸大学大学院国際文化学研究科総務係

FAX 番号 078-803-7509

e-mail gicls-soumu@office.kobe-u.ac.jp

(3) 問い合わせ先：

神戸大学大学院国際文化学研究科総務係

電話番号 078-803-7515

e-mail gicls-soumu@office.kobe-u.ac.jp

7. 公開講座会場

国際文化学部・国際文化学研究科

B棟110教室(1階)

8. 公開講座会場の案内図

●交通機関

阪急六甲駅、JR六甲道駅、阪神御影駅より、

神戸市バス16系統「六甲ケーブル下」

行きに乗車、「神大国際文化学部前」下車



(注)①は、神戸市バス16系統六甲ケーブル下行

②は、36系統鶴甲(つるかぶと)団地行

講義日程・題目及び講師

日程・時間		講義題目・講師	講義内容
13:10～ 開講式			
10月10日 (土曜日)	第1回 13:20 } 14:50	「難しい英語発音の習得 ——MRI 動画観測等から 得たヒント」 ■外国語教育コンテンツ論コース教授 朱 春躍	外国語の音声が生・成・知覚の両面において極めて困難であることは多くの人々が体験しているであろう。しかし、適切な訓練を受けていれば、言語形成期を過ぎた成人でも母語話者に近い発音が習得可能であることが、先行研究で明らかになっている (Neufeld, G.1978)。外国語音声習得の目的は、多くの学習者にとってコミュニケーションのためであるが、英語の light と right のように、発音によって意味が異なる音声については、やはり知覚・生成の両面で認知可能なレベルにまで磨かなければ、コミュニケーションもうまくいかないであろう。Neufeld の「適切な訓練」とは、発音時に調音器官がどのような動きをしているかを、学習者が自覚できるようにするための訓練だと理解されるが、本講義では、日本語母語話者にとって大変難しいと言われている英語の /r/ と /l/ を例に、発音時に調音器官の動きが視認できる MRI 動画等を用いて、どのようにしたらうまく発音できるかのヒントを示したい。
	第2回 15:10 } 16:40	「中国歴代王朝を維持して きた文書行政：言語による 巨大帝国の運営」 ■アジア・太平洋文化論コース教授 萩原 守	人類史上によく見られる巨大帝国というものは、いかなる方法で運営されていたのでしょうか？ 国家の建設と運営には、命令・報告・規範等々の情報伝達が不可欠となりますが、とりわけ巨大帝国の場合には、複雑に錯綜した大量の情報を役所間で効率的にやりとりする必要が生じるはずですが、この講演では、ローマ帝国、モンゴル帝国、チムール帝国等々近代諸帝国の中でも、オスマントルコ帝国と並んで特に情報伝達手段が効率的に整っていたといわれる「文書行政の国」中国・清王朝を例として取り上げ、モンゴル語、満洲語、漢語等の多言語による公文書行政システムの現実を細かく検証して見たいと思います。報告者、萩原は、清朝治下にあったモンゴル遊牧民社会での司法、具体的にいうと裁判システムの研究をしていますが、司法にしても一般行政にしても、その鍵を握るのは文字化された公文書の形式とそれらを作成していく制度であり、その研究には言語学的アプローチが必須であるということがわかっていただけだと思います。巨大帝国は、文字化された言語によって運営されてきたのです。
10月17日 (土曜日)	第3回 13:20 } 14:50	「ジェンダー・ セクシュアリティを通して “ヒト”を知る」 ■先端社会論コース教授 青山 薫	「ジェンダー」と「セクシュアリティ」は、一般にはなじみの薄い言葉かもしれない。日常的な日本語では、「性(せい)」の一言のなかにこれらの意味が込められていることが、その一つの理由だろう。「ジェンダー」は、性別、性差、性自認、性役割等の意味で使われ、「セクシュアリティ」には、性的欲望、性行動、性行為にそれぞれ結びつく人の存在の仕方といった意味がある。ジェンダーとセクシュアリティは、お互いに切っても切れない縁のある言葉であり現象なのである。ここに、身の周りのさまざまな現象に、言葉をつうじ、社会をつうじて意味をもたせるヒトの特徴の一つが現れている。ひらたく言えば、異性に性的欲望をもつことや、性別によって違う性行為をすることを「自然」と考える私たちは、実は「自然」ではなく、ヒト独自の複雑な社会的なルールにのっかって、そう考えているのである。では、社会的ルールによる限り、そのような考えは社会の変化に応じて変わっていくものなのか…。そんな話を、わかりやすい例をあげながらみなさんと共有したい。
	第4回 15:10 } 16:40	「チンパンジー・ボノボを 通して“ヒト”を知る」 ■感性コミュニケーションコース准教授 山本 真也	ヒトとはどんな動物なのだろうか。これまで、ヒトを人たらしめる最たるものとして協力社会が考えられてきた。しかし近年、私たちの進化の隣人、チンパンジーやボノボでも協力行動の基盤がみられることが知られている。チンパンジーは他者の状況に合わせて手助け行動を柔軟に変化させ、ボノボは日常的に手に入る果実を平和に分配しあう。しかし、同時に、彼らとの比較を通して、「自発的に手助けするヒト」という特徴も浮かび上がってきた。チンパンジーやボノボは、たとえ状況から他者の欲求を理解していても、自発的に他者を助けたり積極的に他者に食べ物分け与えたりすることは稀である。このような違いはなぜ・どのように生まれたのだろうか。比較認知科学という新しい学問的視点から、協力社会とそれを支える心の働きがどのように進化してきたのかについて議論したい。人間性の本質について考えをめぐらすきっかけになればと思っています。
16:40～16:50 閉講式 挨拶			